

第1回第2次長久手市地域福祉計画・地域福祉活動計画 策定委員会議事録

日時：平成29年12月14日(木) 14:00～16:00

場所：長久手市役所会議棟 2階 DEF会議室

【出席委員】(50音順・敬称略)

浅井 成美 (まちづくり協議会長・自治会連合会長・区長会)
川本 達也 (子ども会連絡協議会)
喜多 一憲 (長久手市社会福祉協議会)
佐野 治 (静岡英和学院大学)
加藤 勝 (愛知たいようの杜 代理出席)
竹田 晴幸 (百千鳥)
寺西 弘治 (公募市民)
西山 孝樹 (瀬戸歯科医師会長久手歯科医会)
服部 努 (東名古屋長久手市医師会)
細川 修 (長久手市教育委員会)
松宮 朝 (愛知県立大学)
三浦 肇 (長久手市商工会)
水野 正人 (あいち尾東農業協同組合)
山口 節子 (民生委員・児童委員協議会)

【欠席委員】(50音順・敬称略)

大野香代子 (瀬戸保健所)
住田 敦子 (尾張東部成年後見センター)
水野美々子 (ボランティアセンター運営委員会)
吉村 尚子 (瀬戸旭長久手薬剤師会)

【傍聴者】

1人

1 あいさつ

(福祉部長)

本市では、地域福祉計画・地域福祉活動計画(以下「福祉計画」という。)を平成26年9月に第1次として策定した。この福祉計画は、「気づく」、「つながる」、「届く」、「支え合う」、「たつせがある」を基本理念とし、だれもが、住み慣れたまちで安心して暮らせるようにするため、取り組むことが盛り込まれている。

この度、新たに平成31年4月以降の第2次福祉計画を策定するため、本策定委員会を設置した。第2次福祉計画は、第1次福祉計画の基本理念を継承するとともに今年5月に成立した社会福祉法の改正なども踏まえたものにしていきたい。

現在、平成31年度からの第6次総合計画の策定も進めており、福祉計画で定める大枠の福祉施策が総合計画に反映できるものとなるよう連携調整を図っていききたい。

委員の皆様には、ご自身の立ち位置から忌憚ないご意見をいただきたい。

2 委嘱状交付

3 委員会の委員の自己紹介

出席者名簿に沿って順次紹介。

4 会長の選任

委員の互選により委員長に佐野治委員が選出され、委員長が副委員長に竹田晴幸委員を指名した。

(委員長)

福祉計画は、5年間の計画であり今回第2次を迎える。福祉計画では、誰もが安心して地域で暮らせることを目指している。そのためには、様々な問題に対しての早期の発見や支援機関につなげることが必要ある。それは行政だけでは限界があり、地域の人と共に協力していかなければならない。

今回委員になられた多職種・多分野の方々の協力をもって実現できるものと考えられているので、忌憚ないご意見をいただきたい。

5 議題

(1) 第2次地域福祉計画策定方針について

資料1により事務局から説明

第2次福祉計画の策定方針及び社会福祉法の改正により福祉計画が各福祉分野計画の上位計画と位置付けられたこと並びにその他計画と連携していくことを説明。

また、現在策定中の第6次総合計画の策定方針について、市として目指す姿を共有しながら進めていくことを説明。

(2) 地域福祉計画の充実について

資料2により事務局から説明

平成29年5月に成立した社会福祉法の改正について、厚生労働省が策定した福祉計画策定のガイドラインを踏まえ、福祉計画の位置づけや各福祉分野に関し、共通して取り組むべき事項等の改正のポイントを説明。

また、国が進める「我が事・丸ごと」地域づくり推進事業における長久手市の体制の構築について、相談体制の強化や地域力の強化について説明。

(委員)

市民の取組を市民が考え、行動に移すことはとても大事である。ただ、基準がないため評価の方法は難しい。

(委員)

各制度・機関の認知度について、第1次時の意識調査と比較してみたい。また、市民取組プランは、横断的な領域のため、既に取り組んでいるところや計画と関わっている方々と、うまく連動してほしい。

(委員)

地域の小規模事業者が元気にならないと地域の経済は活性化しない。福祉計画に関しては、今まで進めてきた基盤があるため、新しく形を変えるよりも今ある形と有効に関連付けて進めていく方が良いと思われる。

(委員)

市民取組プランなどの市民参加はとても良いことだが、ワークショップ等で集まっても、初めて会う人だとなかなか意見が出ない。何回か重ねて議論していくことが必要。また、どのようなことをするのか事務局で筋道をたててほしい。

(委員)

横の繋がりや情報共有という意味でも、情報の周知はしっかりと行っていただきたい。

(委員)

障がいの福祉サービスは増えてきているが、どこも人材が不足している。また、長久手市の傾向として、急速に事業所ができたので、経営母体が安定していないところも多い。その他、障がいのある人の雇用も課題である。

(委員)

子どもは学校だけではなく、家庭や地域も含めて育てていく。最近、コミュニティスクールが社会で取り上げられているが、これは地域の人も学校に来てもらい、子どもたちと関わる機会を作るというものである。そういったことをしないとこれからの社会はまわっていかないと思う。

交通安全の見守り隊を地域の人が子どもの通学時に実施している。そのようなところからふれあいをはじめて、地域との共生をしていくことが重要と考えられる。

(委員)

長久手は、新しい町と古い町が混在している。古い町は、横の繋がり、縦の絆がしっかりしている。新しい町は、自治会の加入率が低く人の繋がり希薄となっている。地域の行事に少しでも多くの市民が参加して、横の繋がりや名前と顔が一致するような地域にしてほしい。

(委員)

市内では様々な行事があるが、同じ人が駆り出される。協働しながら、他の人を巻き込

める形が必要。また、協働するうえで個人情報などが壁となるので、良いやり方で担い手を育てていける方法を考えてほしい。地区社協では、子どもの学習指導に大学生が参加してもらい、とても助かっている。

(委員)

農業に関してだと構成員の高齢化、次世代の担い手の育成等の様々な課題がある。今後も維持・継続していくには、担い手の育成も重要だが実践している人が続けられるような健康づくりも重要であるため、福祉の一環として行っていきたい。また、第1次福祉計画の進捗を改めて拝見したい。

(委員)

地域への意見聴取が重要だが、コーディネートがかなり重要である。これが十分でないと思いがまとまらないこととなる。なお、アンケートの検討も難しく、どのような項目をたてて、どのように実施するか検討が必要。

また、発言できない人、支援を拒否する人に対するアプローチや支援の方法が悩みの種ときく。どのように意志を吸い上げていくかが難しいと思う。

(委員)

社会的弱者の声をいかに聞き取っていくかが重要である。家から出られないと、地域から隔離されてしまう。また、地域の繋がりが希薄になると声が拾いにくくなり、気持ちに気づかないこともある。おせっかいしたいにも気づくことが出来にくい環境となっている。

移動手段が無い人も多く、交通手段がない人、お金が無い人、障がいにより出かけられない人などが交通の便が解消していくと色々と変わっていくかもしれない。

(委員)

今までは、福祉の縁がなかったところとも繋がっていける福祉計画にしてほしい。

6 その他

議事録に関しては、委員長に確認した後、ホームページに掲載することを説明。

次回の日程は、各委員の予定を確認した上で決定することを説明。

(以上)